

食卓における家族の着席位置

Family Members' Seating Positions at a Dining Table

(1995年 3月31日受理)

北 川 歳 昭
Toshiaki Kitagawa

key words : seating position, family member, dining table

問 題

かつて、日本の家屋の中心には、囲炉裏（いろり）があった。家族の生活は、囲炉裏を中心に展開されていた。囲炉裏の火は、照明、暖房、炊事などを兼ね備えた性質を持っていたばかりでなく、家父長制という家族関係の中心の象徴でもあり、家族の心の拠り所であった。囲炉裏端（いろりばた）は、家族が食事し、団らんを楽しむ憩いの場であると同時に、家族の人間関係の秩序を確認し強化する空間であったのである。それゆえ、囲炉裏の四辺には、家族の定まった座（座席位置）があった（日本民族学協会、1957）。

土間に最も遠いヨコザ（横座）・上座は、家長の定座であり、「猫と馬鹿はヨコザにすわる」という諺が示すように、家長以外のものがヨコザに座ることはあってはならないこととされていた。ヨコザの隣の入り口に近い側面は、客座・アニザ（兄座）・寄り座、と呼ばれ、外来者の定座で、普段は家長以外の男たちの座となっていた。客座に対する奥の側面は、主婦、その他の女たちの定座で、カカザ（女房座）・女座などと呼ばれていた。また、主婦の役割から、タキザ（炊き座）とか鍋座と呼ばれることもあった。カカザには、ヨコザの方から順に姑、嫁、その他の女たちの順に座った。ヨコザの対面は、薪の尻を向けるのでキジリ（木尻）と呼ばれたり、通例、人の座とならないのでアケモト、雇い人の定座として下座・ゲスザ（下衆座）と呼ばれることもあった。これらの四つの座については、地方により多少の呼び名の違いはあっても、その作法は全国的にほぼ共通していたという（柳田他、1939；樋口、1987）。

囲炉裏端の席順は、まさに典型的な座席行動の例である。座席行動は、その場に参加する人々の

間の関係のあり方が空間的に表現されたものであるが、同時にその関係を形成し維持・強化する機能をもっている（ソマー、1970；穂山、1980）。人々は、人間関係や地位関係を「座」ないし「座席」という社会的に合意された慣習の様式を用いて空間的に表現しているのである。日本の家屋から囲炉裏が消失し、家父長制が崩壊してすでに久しい。現代の家庭においては、食卓（ないしコタツ）がかつての囲炉裏端に相当する家族の人間関係の空間的表現の場であろう。とすれば、今日の家庭の食卓に、かつての囲炉裏端のような座席の秩序はあるのだろうか。

本研究は、食卓における家族の座席行動について、何らかの法則性が見出されることを期待して行われた探索的な研究である。本稿は、食卓における家族の着席位置に関する調査の結果について、データの一部を分析したので報告するものである。

本研究で設定した作業仮説は、6つある。まず、家族成員の座席位置に関するものは、次の3つである。

- （1）食卓の座席位置は決まっていると認識されているであろう。
- （2）食卓には特定の家族成員の定座（定席）があるであろう。
- （3）家族間に特定の位置関係があるであろう。

第2仮説は、実際の着席位置には、かつてのヨコザやカカザのように、家庭間に共通した特定の家族成員の定席があると期待したものである。第3仮説は、たとえ、共通の定席というものがなくても、夫と妻、父と娘、母と娘のような、二者の間に特定の法則があるかもしれないと期待したものである。これまでの座席行動研究では、友人同士で、二者の活動の内容によって着席位置の関係が異なること（ソマー、1970）、二者が同性同士か異性同士かによって異なること（Sommer、1959）、文化差あること（Cline & Puhl, 1984）が知られている。しかし、親子や夫婦のような継続的で地位関係の異なる関係の場合で、しかも、特別の課題状況とはいえない食事場面の着席位置関係についての研究例は見あたらない。

次に、食卓の着席位置と伝統的な価値観や習慣の関係に関する仮説を3つあげる。食卓の着席位置が家族関係の秩序だとすれば、伝統的な価値や習慣を尊重している家庭ほど食卓の着席位置にこだわるに違いないと予想される。

- （4）三世代家族の方が、二世代家族よりも、家族の食卓の着席位置をより重視し、より明確に決めているであろう。
- （5）郡部居住者の方が、住宅地や市街地の居住者よりも、食卓の着席位置をより重視し、より明確に決めているであろう。
- （6）伝統的な価値や習慣を重視している者の方が、重視していない者よりも、食卓の着席位置をより重視し、より明確に決めているであろう。

第4仮説は、古い世代が家族の中にいる方が伝統的なものが残っているであろうという予想であ

る。第5仮説は、住宅地や市街地よりも郡部の方が古い価値観や習慣がより残っているであろうという予想である。第6仮説は、食卓の着席位置が家族関係の伝統的な秩序を反映するものと考えられるからである。

方 法

1. 対象

C短大幼児教育科2年生、同短大英語英文科2年生、S短大国際教養学科2年生の計231名に対して、「家族の座席位置等に関する調査」（質問紙）を実施した。回答者は全員女子。年齢は18～19歳。

2. 質問紙

調査項目は以下のような構成になっていた。

- 1) 回答者の性別、年齢、家族構成、家庭の所在地。
- 2) 食事の時の家族の着席位置を図示させ、その決定度（家族の着席位置がどの程度はっきり決まっているか）を7段階で評定させる。図は、記入例を示して、食卓、家族の着席位置、台所ないし流しの位置、出入口の位置、窓の位置、テレビがある場合はその位置、方角（北の方角）を合わせて記入させた。
- 3) コタツに入るときの着席位置を図示させる（今回の分析では省略）。
- 4) 伝統的な価値や習慣（20項目）を示し、家庭でそれを尊重する（こだわる、気にする）程度について、7段階評定させる。

3. 食卓の形状と座席位置の読みとり

図示された食卓の形状から「矩形」と「正方形」とに大別し、さらに方角を加味して、矩形を東西に長い「東西矩形」と南北に長い「南北矩形」に分けた。正方形は、8人分の座席があると見なされる「大正方形」と、4人分の座席しかない「小正方形」に分類した。東西矩形が117件、南北矩形が86件、大正方形が7件、小正方形が6件、その他・無答が13件であった。以下の分析では、比較的多かった東西矩形と南北矩形の場合を取り上げる。

食卓の周囲に図1のように①～⑧までの位置を決め、その位置にどの家族（父が位置1、母が位置2のように）が着席しているかを図から読みとる。その際、食卓における着席位置関係を示す指標として、位置1～8の「各座席位置」の他に、いくつかの座席位置を組み合わせて、長辺1（位置1、2、3の合成）、長辺2（位置5、6、7の合成）、短辺（位置4と8の合成）、中間（位置2

と6の合成)、端部1(位置1、7、8の合成)、端部2(位置3、4、5の合成)といった「合成座席位置」を用いる。(さらに、家族のどれの着席位置が、(a)台所に近いか、(b)テレビの正面か、(c)出入口に近いか、(d)窓の位置に近い、(e)北の方角に近い、を読みとったが、今回の分析では、省略する。)

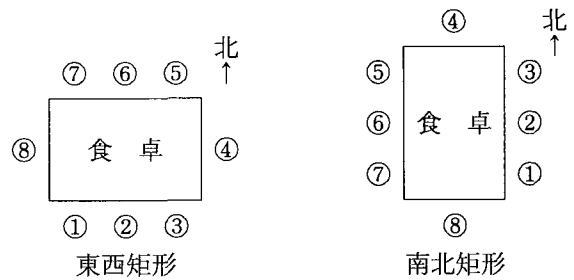


図1 食卓の形状の分類と座席位置番号

結 果

1. 回答者の家庭状況

1) 家族構成

親と子ども(二世帯)が152人、親と子どもに祖父母を含む(三世帯同居)が75人、その他・無答が4名であった。

2) 家庭の所在地

新興住宅地が53名、商業地区・市街地区が98名、郡部が73名、不明・無答が7名であった。

2. 食卓の座席位置と着席比率

家族がその座席位置に着席している割合を示すために「着席比率」(全体の人数に対するその位置に着席する人数の割合)という指標を用いる。表1-1～表1-3は、各家族成員ごとの各座席位置に対する着席比率を示している。表の最下段は、各座席位置に対する全体の着席比率、すなわち、「平均比率」を示している。まず、全体的な傾向をとらえるために、食卓の形状ごとに、平均比率から座席の特徴を見ていく。

1) 食卓が東西矩形の場合(表1-1、最下段)

最も着席比率が高いのは位置7であり、順に、位置5、1、3と長辺の角の占有率が高い。次に位置8と位置4の短辺が続き、長辺の中間位置である位置2と位置6が最も低い。組み合わせると(最下段、右半分)、北側長辺の方が南側長辺よりもやや着席比率が高い傾向があるが、大きな差ではない。また、端部では、西側端部の方が東側端部よりもやや高い傾向がある。

2) 食卓が南北矩形の場合(表1-2、最下段)

最も着席比率が高いのは、位置3であり、順に、位置1、7、5と長辺の角の比率が高い。次に位置4と位置8の短辺が続き、長辺の中間である位置6と位置2が最も低い。合成座席位

置では、東側長辺の方が西側長辺よりもやや着席比率が高い傾向がある。また、端部では、北側端部の方が南側端部よりもやや高い傾向がある。

3) 矩形全体 (表 1-3、最下段)

東西矩形と南北矩形を合わせて矩形全体とし、その傾向を見ると、長辺の角である位置 3、位置 7、位置 1、位置 5 の着席比率が同程度に高く、次に、短辺の位置 8 と位置 4 が続き、長辺中間の位置 6 と位置 2 の順である。合成座席位置では、二つの長辺同士、二つの端部同士の間に顕著な差は見られないことが分かる。

今回の調査では、空席を記入するよう指示しなかったので、その食卓が何人掛け用であるかを区別できなかった。つまり、いずれも 8 つの座席位置がある矩形食卓と見なして結果を整理した。従って、長辺の角の着席比率が最も高く、短辺が続き、長辺の中間が最も低いというのは、当然と思われる。なぜなら、図より食卓を囲む家族数を調べてみると、4 人家族が 96 件、5 人家族 51 件、3 人家族 29 件、6 人家族 24 件であり、4~5 人家族がほとんどであり、実際の食卓が 4 人掛け用ないし 6 人掛け用であっても、図の読みとりとしては、長辺の中間の位置は空席として見なしたからである。調査法ないし読みとり法に一工夫する必要がある。しかし、ここで明らかになったことは、座席位置を方角との関連させても、長辺の 4 つの角の位置の間、2 つの短辺の位置同士の間、そして、長辺の中間の位置同士の間、着席位置の比率に差がないことである。食卓の座席位置は、どの方角にある席でも、物理的に対照的な位置関係にある中では特にいずれかが好まれたり、厭われたりしていないといえよう。

3. 家族成員の着席位置

家族の各成員は食卓のどの位置に座ることが多いのであろうか。食卓の座席位置と家族成員との関係を家族成員の各位置における着席比率 (例えば、父親の何%がその座席位置に着席するかを示す割合) から分析する。全体の平均比率を期待値として各家族成員ごとにその着席比率の有意性をカイ自乗検定した。

1) 食卓の位置との関係

家族の各成員の各座席位置における着席比率が 20% 以上のものまたは平均比率 (表の最下段) との差が 5 ポイント以上のものを考慮しながら、食卓の形状別に、家族成員ごとの着席位置の特徴を見ていく。

(1) 食卓が東西矩形の場合 (表 1-1)

父は、位置 8 がやや高いが、他は特に集中的に高い位置はない。母は、位置 5 が集中的に高くその差は有意である ($p < .05$)。祖父は、位置 1 が特に高い。祖母は、位置 3 が特徴的

に高く、位置 5、7 がそれに続く。兄は、位置 1 に特徴的に集中している。姉は、位置 7 が特徴的に高く、位置 5 がそれに続いている。私は、父と同様、位置 7 がやや高いものの、特に顕著な特徴はない。弟は、位置 3、4、2 が比較的高く、その差は有意である ($p < .05$)。妹は、位置 7 が特徴的に高く、その差は有意水準に近い ($p < .10$)。

合成座席位置 (表の右半分) をみると、母は、長辺 2 (北側) が高く、その差は有意である ($p < .05$)。兄は長辺 1 (南側) が高い傾向がある ($p < .10$)。弟は、長辺 1 と短辺が高い ($p < .05$)。

(2) 食卓が南北矩形の場合 (表 1-2)

父は、全体平均と著しい着席比率の差はない。母は、位置 5 が集中的に高い ($p < .10$)。祖父は、位置 7 に集中しているが有意ではない。祖母は、位置 1 が特徴的に高い。兄は、位置 7 が特徴的に高い。姉は、位置 7 が特徴的に高い ($p < .05$)。私は、位置 3 が比較的高いが、全体平均と大きな差がない。弟は、位置 8 が特徴的に高い。妹は、特徴的には、位置 2 と 6 が高い。

合成座席位置では、弟は短辺が高い ($p < .10$)。母は、端部 2 (東側) が際だって高く、その差は有意である ($p < .01$)。弟は、長辺中間部の比率が高く、有意である ($p < .05$)。

(3) 食卓が矩形の場合 (表 1-3)

東西矩形と南北矩形のデータを合成して矩形全体で家族成員と座席位置の関係をみる。父は、全体平均と同様の着席比率を示している。母は、位置 5 が集中的に高い ($p < .01$)。祖父は、位置 4 が高い。祖母は、全体平均とあまり差がない。兄は、位置 1 に特徴的に集中しているが、有意ではない。姉は、位置 7 が特徴的に高いが、有意とはいえない。私は、全体平均とはほぼ同じ着席比率を示している。弟は、位置 4、8 が特徴的に高い ($p < .10$)。妹は、位置 7 が特徴的に高い。

合成座席位置で平均比率との差が有意であるのは、弟が短辺と長辺 1 が高いこと ($p < .01$)、母が端部 2 が高いこと ($p < .01$)、祖母が端部 2 が高く中間部が低いこと ($p < .05$)、兄が中間と端部 1 が高いこと ($p < .05$) である。合成座席位置の方からみるならば、長辺 1 の方が高いのは、兄、弟、妹であり、逆に、長辺 2 の方が高いのは、母、姉である。また、短辺への比率が高いのは、祖父、弟である。長辺中間部の比率が高いのは、兄、姉である。端部では、端部 1 の比率が高いのは、兄、姉、妹であり、逆に、端部 2 が高いのは、母、祖母である。

家族成員の食卓での着席位置について明らかになったことをまとめると、以下のようになる。

- ① 父親は、着席比率が集中して高い座席位置がみられない。
- ② 母親は、食卓の北ないし北西部の座席 (矩形の座席位置 5 ないし端部 2) に特徴的に高い着

食卓における家族の着席位置

表1-1 家族成員の各座席への着席比率および平均比率との差の検定結果（東西矩形）

家族	各座席位置								χ^2 検定	長辺1	長辺2	短辺	χ^2 検定	中間	端部1	端部2	χ^2 検定	合計 人数
	1	2	3	4	5	6	7	8		1+2+3	5+6+7	4+8		2+6	1+7+8	3+4+5		
父	14.7	3.9	15.7	7.8	14.7	6.9	16.7	<u>19.6</u>	*	34.3	38.2	<u>27.5</u>	*	10.8	51.0	38.2		102
母	14.0	0.0	12.1	11.2	<u>27.1</u>	3.7	17.8	14.0		26.2	<u>48.6</u>	25.2		3.7	45.8	<u>50.5</u>		
祖父	<u>29.4</u>	0.0	11.8	<u>17.6</u>	11.8	<u>11.8</u>	0.0	<u>17.6</u>		41.2	23.5	<u>35.3</u>		11.8	47.1	41.2		17
祖母	17.2	0.0	<u>31.0</u>	6.9	20.7	0.0	20.7	3.4		<u>48.3</u>	41.4	10.3		0.0	41.4	<u>58.6</u>		
兄	<u>35.3</u>	<u>17.6</u>	11.8	5.9	5.9	0.0	17.6	5.9		<u>64.7</u>	23.5	11.8	+	<u>17.6</u>	<u>58.8</u>	23.5		17
姉	14.3	5.7	14.3	2.9	17.1	<u>11.4</u>	22.9	11.4		34.3	<u>51.4</u>	14.3		<u>17.1</u>	48.6	34.3		
私	16.4	9.1	15.5	10.0	16.4	4.5	19.1	9.1		40.9	40.0	19.1		13.6	44.5	41.8		110
弟	16.3	<u>14.0</u>	20.9	<u>18.6</u>	7.0	2.3	9.3	11.6		<u>51.2</u>	18.6	<u>30.2</u>		<u>16.3</u>	37.2	46.5		
妹	16.1	6.5	19.4	6.5	9.7	0.0	<u>38.7</u>	3.2	+	41.9	<u>48.4</u>	9.7		6.5	<u>58.1</u>	35.5		31
平均	16.5	5.5	16.1	9.8	16.9	4.7	18.3	12.2			38.1	39.9		22.0		10.2		47.0

(注) アンダーライン：平均比率に比べて5ポイント以上大きい数値。

カイ自乗検定の結果：+p<.10 *p<.05 **p<.01 ***p<.001 以上は、表1-2、1-3も同じ。

表1-2 家族成員の各座席への着席比率および平均比率との差の検定結果（南北矩形）

家族	各座席位置								χ^2 検定	長辺1	長辺2	短辺	χ^2 検定	中間	端部1	端部2	χ^2 検定	合計 人数
	1	2	3	4	5	6	7	8		1+2+3	5+6+7	4+8		2+6	1+7+8	3+4+5		
父	18.5	6.2	16.0	11.1	17.3	7.4	16.0	7.4	+	40.7	40.7	18.5		13.6	42.0	44.4		81
母	12.3	2.5	22.2	<u>17.3</u>	<u>23.5</u>	4.9	9.9	7.4		37.0	38.3	24.7		7.4	29.6	<u>63.0</u>		
祖父	0.0	0.0	22.2	<u>22.2</u>	11.1	0.0	<u>44.4</u>	0.0		22.2	<u>55.6</u>	22.2		0.0	44.4	<u>55.6</u>		9
祖母	<u>24.0</u>	0.0	12.0	16.0	16.0	0.0	16.0	16.0		36.0	32.0	<u>32.0</u>		0.0	<u>56.0</u>	44.0		
兄	18.8	0.0	12.5	6.3	0.0	<u>18.8</u>	<u>25.0</u>	<u>18.8</u>		31.3	<u>43.8</u>	25.0		<u>18.8</u>	<u>62.5</u>	18.8		16
姉	20.0	<u>20.0</u>	20.0	0.0	0.0	0.0	<u>33.3</u>	6.7		<u>60.0</u>	33.3	6.7		<u>20.0</u>	<u>60.0</u>	20.0		
私	18.1	6.0	21.7	8.4	14.5	7.2	14.5	9.6		<u>45.8</u>	36.1	18.1		13.3	42.2	44.6		83
弟	13.6	0.0	22.7	13.6	4.5	9.1	9.1	<u>27.3</u>		36.4	22.7	<u>40.9</u>		9.1	<u>50.0</u>	40.9		
妹	18.8	<u>12.5</u>	15.6	6.3	6.3	<u>12.5</u>	15.6	12.5		<u>46.9</u>	34.4	18.8		<u>25.0</u>	46.9	28.1	*	32
平均	16.8	5.2	19.0	11.5	14.6	6.9	15.7	10.4			40.9	37.1		22.0		12.1		42.9

表1-3 家族成員の各座席への着席比率および平均比率との差の検定結果（矩形全体）

家族	各座席位置								χ^2 検定	長辺1	長辺2	短辺	χ^2 検定	中間	端部1	端部2	χ^2 検定	合計 人数
	1	2	3	4	5	6	7	8		1+2+3	5+6+7	4+8		2+6	1+7+8	3+4+5		
父	16.4	4.9	15.8	9.3	15.8	7.1	16.4	14.2		37.2	39.3	23.5	+	12.0	47.0	41.0		183
母	13.3	1.1	16.5	13.8	<u>25.5</u>	4.3	14.4	11.2		30.9	<u>44.1</u>	25.0		5.3	38.8	<u>55.9</u>		
祖父	19.2	0.0	15.4	<u>19.2</u>	11.5	7.7	15.4	11.5		34.6	34.6	<u>30.8</u>		7.7	46.2	46.2		26
祖母	20.4	0.0	22.2	11.1	18.5	0.0	18.5	9.3		42.6	37.0	20.4		0.0	48.1	<u>51.9</u>		
兄	<u>27.3</u>	9.1	12.1	6.1	3.0	9.1	21.2	12.1		<u>48.5</u>	33.3	18.2		<u>18.2</u>	<u>60.6</u>	21.2	*	33
姉	16.0	10.0	16.0	2.0	12.0	8.0	<u>26.0</u>	10.0		42.0	<u>46.0</u>	12.0		<u>18.0</u>	<u>52.0</u>	30.0		
私	17.1	7.8	18.1	9.3	15.5	5.7	17.1	9.3		43.0	38.3	18.7		13.5	43.5	43.0		193
弟	15.4	9.2	21.5	<u>16.9</u>	6.2	4.6	9.2	<u>16.9</u>		+	<u>46.2</u>	20.0		<u>33.8</u>	**	13.8		41.5
妹	17.5	9.5	17.5	6.3	7.9	6.3	<u>27.0</u>	7.9	<u>44.4</u>		41.3	14.3	15.9	<u>52.4</u>		31.7		
平均	16.6	5.4	17.3	10.5	15.9	5.6	17.2	11.5		39.3	38.7	22.0		11.0	45.3	43.7		855

席比率がみられる。

- ③ 私は、全体比率と著しく異なる特定の座席位置が見られない。
- ④ 短辺は、祖父と弟の比率が特に高い。
- ⑤ 長辺の中間は、祖父母や親といった大人世代の着席比率が比較的低く、子ども世代の比率が高い。とりわけ、祖母の比率が0であり、兄、姉、妹の比率が高いのが注目される。

2) 家族成員間の相対的關係

父と母と私（娘）の三者について、各二者間の相対的な座席位置関係をみる。表2-1～3は、東西矩形と南北矩形を合わせた矩形全体の数値である。縦計の平均比率を期待値として、縦の者の位置毎に横の者の着席比率の有意性を検定する。

(1) 父と母（表2-1）

父の着席位置別に、各座席位置における母の着席比率をみていく。父が位置3の時は、母は、位置5が高い（ $p < .10$ ）。父が位置4の場合、母は、位置8が高い（ $p < .01$ ）。父が位置5の場合、母は、位置7、3、4が高い（ $p < .05$ ）。父が位置6の場合、母は、位置4に集中している（ $p < .01$ ）。父が位置7の場合、母は、位置5、1が高い（ $p < .10$ ）。父が位置8の場合、母は、位置5、6が高い（ $p < .10$ ）。合成座席位置でみると、父が長辺2の場合、母は、長辺1に着席する割合が多い（ $p < .10$ ）。父が短辺の時、母は、中間、端部1が多い（ $p < .01$ ）。父が長辺の中間の時、母は、短辺が多い（ $p < .001$ ）。父が端部1の時、母は、長辺2が多い（ $p < .10$ ）。

以上から、父と母は、食卓の位置関係では、対照的な位置に着席していることが読みとれる。すなわち、長辺や端部でいえば、父と母は、反対側の長辺ないし端部に相対して着席することが多い。また、父が長辺の中間部に位置している場合、母は、短辺ないし端部に着席することが多い。

(2) 父と私（表2-2）

同様に、父と私（娘）の間の相対的な着席位置関係をみていく。父が位置1の時、私は、位置3、5に着席することが多い（ $p < .05$ ）。父が位置2の時、私は、位置6、7が多い（ $p < .05$ ）。父が位置3の時は、私は、位置1と7に特徴的に多い（ $p < .05$ ）。父が位置6の場合、私は、位置2、8に特に多い（ $p < .10$ ）。父が位置7の場合、私は、位置1、2に多い（ $p < .10$ ）。合成座席位置でみると、父が長辺1の場合、私は、長辺2が多い（ $p < .05$ ）。逆に、父が長辺2の時、私は、長辺1が多い（ $p < .001$ ）。父が端部1の時は、私は、端部2が多い（ $p < .10$ ）。逆に、父が端部2の時、私は、端部1が多い（ $p < .05$ ）。

父と母の関係以上に、父と私は、食卓の位置関係で対照的な位置に着席しているようだ。すなわち、長辺や端部でいえば、父と私は、反対側の長辺ないし端部に相対して着席するこ

食卓における家族の着席位置

表2-1 父の各着席位置における母の各座席の着席比率（縦=父、横=母）
および平均比率との差の検定（矩形全体）

母 父	各座席位置								χ^2 検定	長辺1 1+2+3	長辺2 5+6+7	短辺 4+8	χ^2 検定	中間 2+6	端部1 1+7+8	端部2 3+4+5	χ^2 検定	横計 人数		
	1	2	3	4	5	6	7	8												
各 座 席 位 置	1	0.0	0.0	<u>26.7</u>	13.3	<u>30.0</u>	0.0	<u>20.0</u>	10.0		26.7	<u>50.0</u>	23.3		0.0	30.0	<u>70.0</u>		30	
	2	11.1	0.0	11.1	<u>33.3</u>	11.1	<u>11.1</u>	0.0	<u>22.2</u>		22.2	22.2	<u>55.6</u>	+	<u>11.1</u>	33.3	55.6		9	
	3	17.9	0.0	0.0	10.7	<u>50.0</u>	0.0	10.7	10.7		+	17.9	<u>60.7</u>	21.4	0.0	39.3	60.7		28	
	4	17.6	<u>11.8</u>	5.9	0.0	11.8	5.9	17.6	<u>29.4</u>	***		35.3	35.3	<u>29.4</u>		<u>17.6</u>	<u>64.7</u>	17.6	**	17
	5	11.1	0.0	<u>29.6</u>	<u>22.2</u>	0.0	3.7	<u>29.6</u>	3.7	*		<u>40.7</u>	33.3	25.9		3.7	<u>44.4</u>	51.9		27
	6	7.7	0.0	<u>23.1</u>	<u>53.8</u>	0.0	0.0	0.0	15.4	**		30.8	0.0	<u>69.2</u>	***	0.0	<u>23.1</u>	<u>76.9</u>		13
	7	<u>25.9</u>	0.0	<u>22.2</u>	0.0	<u>37.0</u>	3.7	0.0	11.1	+		<u>48.1</u>	40.7	11.1		3.7	37.0	<u>59.3</u>		27
	8	<u>19.2</u>	0.0	11.5	3.8	<u>34.6</u>	<u>15.4</u>	15.4	0.0	+		30.8	<u>65.4</u>	3.8	*	<u>15.4</u>	34.6	50.0	+	26
長辺1	9.0	0.0	13.4	14.9	<u>35.8</u>	1.5	13.4	11.9			22.4	<u>50.7</u>	26.9		1.5	34.3	<u>64.2</u>		67	
長辺2	16.4	0.0	<u>25.4</u>	<u>19.4</u>	14.9	3.0	11.9	9.0			<u>41.8</u>	29.9	28.4	+	3.0	37.3	59.7		67	
短辺	18.6	4.7	9.3	2.3	25.6	<u>11.6</u>	16.3	11.6	*		32.6	<u>53.5</u>	14.0		<u>16.3</u>	<u>46.5</u>	37.2	**	43	
中間	9.1	0.0	18.2	<u>45.5</u>	4.5	4.5	0.0	<u>18.2</u>	***		27.3	9.1	<u>63.6</u>	***	4.5	27.3	<u>68.2</u>		22	
端部1	14.5	0.0	20.5	6.0	<u>33.7</u>	6.0	12.0	7.2			34.9	<u>51.8</u>	13.3	+	6.0	33.7	60.2		83	
端部2	15.3	2.8	12.5	12.5	22.2	2.8	<u>19.4</u>	12.5			30.6	44.4	25.0		5.6	<u>47.2</u>	47.2		72	
平均 %	14.1	1.1	16.9	13.6	25.4	4.5	13.6	10.7			32.2	43.5	24.3		5.6	38.4	55.9		177	

(注) アンダーライン：平均%に比べて5ポイント以上大きい数値。

カイ自乗検定の結果：+p<.10 *p<.05 **p<.01 ***p<.001 以上は、表2-2、2-3も同じ。

表2-2 父の各着席位置における私の各座席の着席比率（縦=父、横=私）
および平均比率との差の検定（矩形全体）

私 父	各座席位置								χ^2 検定	長辺1 1+2+3	長辺2 5+6+7	短辺 4+8	χ^2 検定	中間 2+6	端部1 1+7+8	端部2 3+4+5	χ^2 検定	横計 人数		
	1	2	3	4	5	6	7	8												
各 座 席 位 置	1	0.0	0.0	<u>33.3</u>	6.7	<u>26.7</u>	3.3	20.0	10.0	*	33.3	<u>50.0</u>	16.7		3.3	30.0	<u>66.7</u>	*	30	
	2	0.0	0.0	11.1	11.1	11.1	<u>33.3</u>	<u>22.2</u>	11.1	*	11.1	<u>66.7</u>	22.2		<u>33.3</u>	33.3	33.3		9	
	3	<u>35.7</u>	3.6	0.0	3.6	17.9	3.6	<u>28.6</u>	7.1	*		39.3	<u>50.0</u>	10.7		7.1	<u>71.4</u>	21.4	*	28
	4	11.8	5.9	11.8	0.0	17.6	<u>23.5</u>	11.8				29.4	<u>58.8</u>	11.8		<u>23.5</u>	47.1	29.4		17
	5	<u>27.6</u>	3.4	<u>31.0</u>	10.3	0.0	0.0	13.8	13.8			<u>62.1</u>	13.8	<u>24.1</u>	*	3.4	<u>55.2</u>	41.4		29
	6	0.0	<u>23.1</u>	23.1	<u>15.4</u>	7.7	0.0	7.7	<u>23.1</u>	+		46.2	15.4	<u>38.5</u>		<u>23.1</u>	30.8	46.2		13
	7	<u>33.3</u>	<u>13.3</u>	20.0	13.3	16.7	0.0	0.0	3.3	+		<u>66.7</u>	16.7	16.7	*	13.3	36.7	<u>50.0</u>		30
	8	11.5	11.5	15.4	<u>19.2</u>	15.4	7.7	19.2	0.0			38.5	<u>42.3</u>	19.2		<u>19.2</u>	30.8	<u>50.0</u>		26
長辺1	14.9	1.5	16.4	6.0	<u>20.9</u>	7.5	<u>23.9</u>	9.0			32.8	<u>52.2</u>	14.9	*	9.0	47.8	43.3		67	
長辺2	<u>25.0</u>	11.1	<u>25.0</u>	12.5	8.3	0.0	6.9	11.1	*		<u>61.1</u>	15.3	23.6	***	11.1	43.1	45.8		72	
短辺	11.6	9.3	14.0	11.6	16.3	<u>11.6</u>	20.9	4.7			34.9	<u>48.8</u>	16.3		<u>20.9</u>	37.2	41.9		43	
中間	0.0	<u>13.6</u>	18.2	13.6	9.1	<u>13.6</u>	13.6	<u>18.2</u>			31.8	36.4	<u>31.8</u>		<u>27.3</u>	31.8	40.9		22	
端部1	15.1	8.1	23.3	12.8	<u>19.8</u>	3.5	12.8	4.7			46.5	36.0	17.4		11.6	32.6	<u>55.8</u>	+	86	
端部2	<u>27.0</u>	4.1	14.9	5.4	10.8	5.4	<u>21.6</u>	10.8			45.9	37.8	16.2		9.5	<u>59.5</u>	31.1	*	74	
平均 %	18.1	7.1	19.2	9.9	14.8	5.5	16.5	8.8			44.5	36.8	18.7		12.6	43.4	44.0		182	

とが多い。また、父が長辺の中間部に位置している場合、私は、反対側の中間部か、短辺に着席することが多い傾向も見られる。

(3) 母と私（表2-3）

母が位置1の時、私は、位置3、5、8に着席することが多い（p<.05）。母が位置2の時、私は、位置8に着席している（ただし、2事例しかない）。母が位置5の場合、私は、位

置7、1に多い ($p < .01$)。母が位置7の場合、私は、集中的に位置5に多い ($p < .05$)。合成座席位置をみると、母が短辺の時、私は、長辺の中間が多い ($p < .10$)。母が端部1の時、私は、端部2が多い ($p < .01$)。

母と私の関係は、父と母や父と私の関係とは違い、必ずしも対照的な位置関係とはなっていない。そのことが明らかなのは長辺で、母と私は互いに反対側に着席するといった対面的な位置関係が強くない。むしろ、母と私とは同じ側の長辺に隣り合って着席している傾向が見られる。また、母が中間部の時に、私が母の位置と対照的な短辺に着席することが少ないことも、父との位置関係に対する差違としてあげられよう。これらの発見は、これまでの座席行動研究の結果と重なるものである。

表2-3 母の各着席位置における私の各座席の着席比率（縦＝母、横＝私）
および平均比率との差の検定（矩形全体）

私 母	各 座 席 位 置								χ^2 検定	長辺1	長辺2	短辺	χ^2 検定	中間	端部1	端部2	χ^2 検定	横計 人数	
	1	2	3	4	5	6	7	8		1+2+3	5+6+7	4+8		2+6	1+7+8	3+4+5			
各 座 席 位 置	1	0.0	0.0	<u>36.0</u>	8.0	<u>24.0</u>	0.0	12.0	<u>20.0</u>	*	36.0	36.0	<u>28.0</u>	*	0.0	32.0	<u>68.0</u>	*	25
	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	<u>100.0</u>	**	0.0	0.0	<u>100.0</u>	*	0.0	<u>100.0</u>	0.0		2
	3	<u>30.0</u>	10.0	0.0	13.3	20.0	0.0	16.7	10.0		40.0	36.7	23.3		10.0	<u>56.7</u>	33.3		30
	4	11.5	3.8	<u>26.9</u>	0.0	19.2	<u>15.4</u>	11.5	11.5		42.3	<u>46.2</u>	11.5		<u>19.2</u>	34.6	46.2		26
	5	<u>25.0</u>	8.3	14.6	12.5	0.0	4.2	<u>33.3</u>	2.1	**	<u>47.9</u>	37.5	14.6		12.5	<u>60.4</u>	27.1	*	48
	6	12.5	<u>25.0</u>	0.0	0.0	12.5	0.0	<u>50.0</u>	0.0		37.5	<u>62.5</u>	0.0		<u>25.0</u>	<u>62.5</u>	12.5		8
	7	7.4	7.4	22.2	11.1	<u>37.0</u>	3.7	0.0	11.1	*	37.0	40.7	22.2		11.1	18.5	<u>70.4</u>	*	27
	8	19.0	<u>14.3</u>	19.0	14.3	4.8	<u>19.0</u>	9.5	0.0		<u>52.4</u>	33.3	14.3		<u>33.3</u>	28.6	38.1	*	21
長辺1	15.8	5.3	15.8	10.5	<u>21.1</u>	0.0	14.0	<u>17.5</u>		36.8	35.1	<u>28.1</u>		5.3	47.4	47.4		57	
長辺2	18.1	9.6	15.7	10.8	13.3	3.6	<u>24.1</u>	4.8		43.4	41.0	15.7		13.3	47.0	39.8		83	
短 辺	14.9	8.5	<u>23.4</u>	6.4	12.8	<u>17.0</u>	10.6	6.4	+	46.8	40.4	12.8		<u>25.5</u>	31.9	42.6	+	47	
中 間	10.0	<u>20.0</u>	0.0	0.0	10.0	0.0	<u>40.0</u>	<u>20.0</u>		30.0	<u>50.0</u>	20.0		<u>20.0</u>	<u>70.0</u>	10.0		10	
端部1	8.2	6.8	<u>26.0</u>	11.0	<u>23.3</u>	6.8	6.8	11.0	*	41.1	37.0	21.9		13.7	26.0	<u>60.3</u>	**	73	
端部2	<u>23.1</u>	7.7	13.5	9.6	10.6	5.8	<u>23.1</u>	6.7		44.2	39.4	16.3		13.5	<u>52.9</u>	33.7		104	
平 均 %	16.6	8.0	17.6	9.6	15.5	5.9	17.6	9.1		42.2	39.0	18.7		13.9	43.3	42.8		187	

5. 座席位置の決定度（表3）

食卓での家族の着席位置がはっきり決まっている程度を7段階で評定してもらった。

1) 全体の傾向

家族の着席位置が「はっきり決まっている」と「だいたい決まっている」がほぼ等しく、両者で80%を占める。「大人は決まっているが子どもは決まっていない」がわずかにあるものの、その逆の「子どもは決まっているが、大人は決まっていない」は、皆無であった。「はっきり決まっていない」と「まったく決まっていない」は、ごく少ない。食卓の家族の座席位置は、かなりはっきり決まっていると認識されている、といえよう。

2) 家族構成との関係

着席位置の決定度は家族構成（二世世代家族か三世世代家族か）によって異なるだろうか。つまり、伝統的価値や習慣の伝達の主要なエージェントと考えられる祖父母の存在が家族の座席位置の決定度に関わっているだろうか。「はっきり決まっている」は、二世世代家族が37.9%であるのに対し、三世世代家族では49.3%と多い。逆に、「だいたい決まっている」は、二世世代家族が44.1%のに対し、三世世代家族では35.2%と少ない。これは、三世世代家族の方が食卓の座席位置がよりはっきり決まっている傾向があることを示している。しかし、その比率の差は有意水準に届かない。

3) 住居地域との関係

伝統的価値や習慣は、住居地域でいえば、郡部や旧市街地区でより強く残っているのではないかと想像される。そこで、回答者の家庭の所在地を新興住宅地、商業地区・市街地区、郡部の三種に分け、座席位置の決定度を比較した。「はっきり決まっている」と答えた割合を見ると、郡部が42.6%と多いが、新興住宅地区も42.3%と多く、期待された差は見いだされなかった。食卓における家族の座席位置の決定度に地域差はないと結論できよう。

表3 食卓における家族の着席位置の決定度

		選択肢（6ポイント）と選択比率						合計人数	χ^2 検定結果	平均値 (SD)	t検定結果
		は 決 つ き り な い 1	だ い た い に 決 ま っ て い る 2	大 人 と ち い な い 3	子 ど も と ち い な い 4	決 ま っ て い な い 5	決 ま っ て い る 6				
全 体		40.9	41.4	2.7	0.0	10.5	4.5	220		2.1 (1.45)	
家族 構成	二 世 代	37.9	44.1	3.5	0.0	9.7	4.8	145	ns	2.1 (1.43)) ns
	三 世 代	49.3	35.2	1.4	0.0	12.7	1.4	71		2.0 (1.37)	
家庭 の所 在 地	新興住宅	42.3	40.4	3.8	0.0	7.7	5.8	52	ns	2.1 (1.44)) ns ns
	商業市街	36.6	44.1	3.2	0.0	9.7	6.4	93		2.2 (1.50)	
	郡 部	42.6	41.2	1.5	0.0	13.2	1.5	68		2.0 (1.37)	

6. 伝統的価値観・習慣の評定

今回新たに考案した伝統的価値観・習慣に関する20項目を示し、それぞれに、「あなたから見て、あなたの家庭では、以下の項目について、それを尊重する（こだわる、気にする）方だと思いますか、それとも、あまり尊重しない方だと思いますか。」と問い、「非常に尊重する方だと思う」（7点）から、「まったく尊重しない方だと思う」（1点）までの7段階評定を求めた。

1) 全体の傾向（表4-1）

表4-1は、20項目を評定値の高い順に並べ替えたものである。家庭においてよく尊重される伝統的価値ないし習慣（平均値が5.0以上）は、宗教的習慣、親戚付き合い、近所付き合い、礼儀・作法、敬老精神、年賀状の習慣である。比較的尊重される項目（平均値が4.0以上）は、経済的自立、挨拶、父親の権威、社会的地位、季節の行事、先祖の崇拜、名誉や体面、家族の食事である。比較的尊重されないの（平均値3.9以下）は、言葉づかい、性の区別、年齢の序列、方角や占い、座席の位置、風呂の順番であった。「座席の位置や上座・下座の区別」は、順位19位であり、家庭の中であまり尊重されていない項目と認識されている。

2) 座席決定度との関係（表4-1）

座席位置の決定度との間の相関係数をみると、5%水準で有意な相関関係にある項目は、父親の権威、家族の食事、性の区別、年齢の序列、方角や占い、座席の位置、風呂の順番であり、いずれも負の相関であった。つまり、それらの項目を尊重するものほど家庭の座席位置がはっきり決まっている傾向がある。

表4-1 伝統的価値・習慣についての評定平均値および他の項目との相関係数

順位	伝統的な価値や習慣（項目番号）	平均値 (SD)	相関係数 (n=206)	
			座席決定度	座席の位置 (i 50)
1	お盆や法事、日常の宗教的習慣…………… (i 49)	5.4 (1.47)	.008	.248***
2	親戚づきあい…………… (i 64)	5.1 (1.26)	.005	.154*
3	近所づきあい…………… (i 65)	5.0 (1.29)	-.103	.121
3	礼儀、作法、マナー…………… (i 66)	5.0 (1.28)	-.115	.263***
3	老人へのいたわり、敬老精神…………… (i 51)	5.0 (1.28)	.059	.180**
3	年賀状、暑中見舞いなどの習慣…………… (i 56)	5.0 (1.41)	.038	.149*
7	経済的自立、金銭的価値…………… (i 55)	4.6 (1.38)	.070	.223**
8	あいさつの習慣…………… (i 63)	4.5 (1.74)	-.106	.243***
8	父親の権威…………… (i 58)	4.5 (1.70)	-.172*	.431***
10	社会的地位の上下関係…………… (i 52)	4.2 (1.46)	-.086	.424***
10	季節ごとの伝統的行事や習慣…………… (i 48)	4.2 (1.57)	-.084	.314***
12	先祖の崇拜、家系の由来…………… (i 54)	4.1 (1.86)	-.085	.448***
12	名誉、評判、体面、栄光…………… (i 57)	4.1 (1.50)	-.107	.328***
14	家族全員そろった食事…………… (i 61)	4.0 (1.81)	-.266***	.322***
15	言葉づかい（敬語、謙譲語など）…………… (i 50)	3.9 (1.65)	-.080	.373***
15	性の区別、性役割…………… (i 59)	3.9 (1.63)	-.162*	.451***
17	年令による序列…………… (i 60)	3.6 (1.64)	-.157*	.573***
18	方角、占い、暦…………… (i 67)	3.5 (1.79)	-.138*	.206**
19	座席の位置、上座・下座の区別…………… (i 53)	3.2 (1.63)	-.180**	1.000
20	お風呂に入る順番…………… (i 62)	2.5 (1.64)	-.138*	.430***

相関係数の有意性検定の結果 * p < .05 ** p < .01 *** p < .001

3) 「座席の位置」項目との関係(表4-1)

座席の位置(項目53)との間の相関をみると、近所付き合いの項目を除いてすべての項目との間に5%水準の相関が認められる。その中でも相関係数が特に高い(.400以上)の項目を見ると、父親の権威、社会的地位、先祖の崇拜、性の区別、年齢の序列、風呂の順番が該当する。これらは、「座席の位置、上座・下座の区別」を含めて、いずれも家族間の人間関係の序列や秩序と関わりがある項目であると考えられる。

4) 家族構成との関係(表4-2)

伝統的価値・習慣は、祖父母のいる三世代家族の方が二世代家族よりも、より尊重される傾向にあるだろうと予想される。敬老精神、経済的自立、挨拶の習慣、社会的地位、名誉・体面、言葉づかいの6項目を除き、14項目で三世代家族の方が得点が高かった。特に、宗教的習慣、近所付き合い、季節の行事、先祖の崇拜、方角・占い、風呂の順番の6項目については、5%水準の有意な群差が認められる。座席の位置については、三世代家族の方が尊重されてい

表4-2 伝統的価値・習慣と家族構成の関係

順位	伝統的価値・習慣	家族構成		t検定の結果
		二世代家族 (n=145)	三世代家族 (n=71)	
1	宗教的習慣…(i 49)	5.1 (1.56)	6.0 (1.11)	***
2	親戚付合…(i 64)	5.0 (1.24)	5.3 (1.29)	
3	近所付合…(i 65)	4.9 (1.29)	5.3 (1.25)	*
3	礼儀、作法…(i 66)	5.0 (1.28)	5.1 (1.31)	
3	敬老精神…(i 51)	5.0 (1.29)	4.9 (1.26)	
3	年賀状習慣…(i 56)	4.9 (1.42)	5.1 (1.38)	
7	経済的自立…(i 55)	4.7 (1.42)	4.4 (1.30)	
8	挨拶の習慣…(i 63)	4.6 (1.74)	4.5 (1.75)	
8	父親の権威…(i 58)	4.4 (1.70)	4.6 (1.73)	
10	社会的地位…(i 52)	4.2 (1.43)	4.1 (1.51)	
10	季節の行事…(i 48)	4.0 (1.55)	4.6 (1.56)	**
12	先祖の崇拜…(i 54)	3.9 (1.83)	4.5 (1.87)	*
12	名誉、体面…(i 57)	4.1 (1.47)	4.0 (1.54)	
14	家族の食事…(i 61)	3.9 (1.79)	4.2 (1.87)	
15	言葉づかい…(i 50)	4.0 (1.65)	3.8 (1.68)	
15	性の区別…(i 59)	3.9 (1.59)	4.0 (1.71)	
17	年齢の序列…(i 60)	3.5 (1.58)	3.8 (1.72)	
18	方角、占い…(i 67)	3.3 (1.76)	4.0 (1.75)	*
19	座席の位置…(i 53)	3.1 (1.60)	3.4 (1.65)	
20	風呂の順番…(i 62)	2.3 (1.54)	2.9 (1.80)	*

* p < .05 ** p < .01 *** p < .001

る傾向があるが、有意ではなかった。

5) 住居地域との関係 (表 4-3)

家庭の所在地と伝統的価値・習慣の尊重の程度との関係を見る。伝統的価値や習慣が残っていると想像される郡部が他の2地域よりも得点が高いのは、宗教的習慣、親戚付き合い、近所付き合い、年賀状習慣、父親の権威、季節の行事、先祖の崇拜、性の区別、年齢の序列、座席の位置、風呂の順番の11項目であった。そのうち、特に、宗教的習慣、父親の権威、季節の行事、座席の位置については、二群間に5%水準の有意差が認められる。座席の位置の尊重度には、地域差があり、市街地よりも、郡部で、より尊重されているようだ。

表 4-3 伝統的価値・習慣と家庭の所在地との関係

順位	伝統的価値・習慣	家庭の所在地			群間の t 検定の結果		
		振興住宅 (n=52)	商業市街 (n=93)	郡部 (n=68)	住一市	市一郡	住一郡
1	宗教的習慣… (i 49)	5.2 (1.33)	5.2 (1.61)	5.8 (1.30)		**	*
2	親戚付合… (i 64)	5.0 (1.27)	5.0 (1.19)	5.3 (1.33)			
3	近所付合… (i 65)	4.9 (1.32)	4.9 (1.18)	5.3 (1.43)		+	
3	礼儀、作法… (i 66)	5.1 (1.09)	5.1 (1.38)	4.9 (1.30)			
3	敬老精神… (i 51)	5.1 (1.13)	4.9 (1.32)	4.9 (1.35)			
3	年賀状習慣… (i 56)	4.8 (1.52)	4.9 (1.19)	5.1 (1.60)			
7	経済的自立… (i 55)	4.8 (1.46)	4.5 (1.33)	4.6 (1.37)			
8	挨拶の習慣… (i 63)	4.5 (1.69)	4.5 (1.72)	4.5 (1.81)			
8	父親の権威… (i 58)	4.0 (1.73)	4.5 (1.68)	4.8 (1.65)	+		*
10	社会的地位… (i 52)	4.4 (1.54)	4.1 (1.42)	4.2 (1.45)			
10	季節の行事… (i 48)	3.7 (1.64)	4.1 (1.54)	4.5 (1.49)		+	**
12	先祖の崇拜… (i 54)	3.9 (1.82)	4.2 (1.87)	4.4 (1.89)			
12	名誉、体面… (i 57)	4.1 (1.58)	4.1 (1.45)	4.1 (1.54)			
14	家族の食事… (i 61)	4.2 (1.87)	3.9 (1.71)	4.0 (1.83)			
15	言葉づかい… (i 50)	3.8 (1.68)	4.1 (1.63)	4.0 (1.67)			
15	性の区別… (i 59)	4.0 (1.53)	3.8 (1.69)	4.1 (1.64)			
17	年令の序列… (i 60)	3.4 (1.62)	3.5 (1.62)	3.9 (1.64)			
18	方角、占い… (i 67)	3.7 (1.95)	3.3 (1.75)	3.7 (1.71)			
19	座席の位置… (i 53)	3.1 (1.77)	3.0 (1.64)	3.5 (1.50)		*	
20	風呂の順番… (i 62)	2.3 (1.60)	2.4 (1.53)	2.9 (1.77)		+	+

+ p < .10 * p < .05 ** p < .01

考 察

1. 作業仮説の検討

設定された作業仮説の検証の如何を検討する。第1仮説「食卓の座席位置は決まっていると認識されている」は、支持されたといえよう。第2仮説「家族成員によって普遍的な共通の定座（定席）がある」は、必ずしも支持されたとはいいがたい。特に、かつてのヨコザの主であった父親の座席に共通性がなかった。むしろ、母親の方が特徴的な着席位置が認められた。第3仮説「家族間に特定の位置関係がある」は、父と母（夫と妻）、及び、父と私（娘）は、対面的な位置関係に着席しがちであり、母と私（娘）は、隣り合った席に着席しがちであることが判明した。第4仮説「三世代家族の方が二世代家族よりも着席位置を重視し明確に決めているであろう」は、傾向差はあったが、統計的には十分ではなかった。第5仮説「郡部居住者の方が住宅地や市街地の居住者よりも着席位置を重視し明確に決めているであろう」も、その傾向差は認められるものの、統計的に十分な差とはいえない。第6仮説「伝統的な価値や習慣を重視している者の方が重視していない者よりも着席位置を重視し明確に決めているであろう」は、ほぼ支持されたといって良いであろう。

2. 父母の着席位置と家庭内地位

食卓の座席位置に見る限り、父親の家庭内地位は必ずしも安定し、確固たるものであるとはいえない。他の家族が座ることを許さない「父親の座」は、食卓の座席位置からは見えてこないのである。父親は食卓のどこにでも平均的に座らせられている。もちろん、家庭の食卓の形状や部屋の条件によって、各家庭では、父親の座は決まっている可能性はあるのだが、少なくとも、それは、リーダーシップが発揮されやすいとされる短辺でもなく、一定の方角に位置するといった各家庭に共通する「定座」でもない。むしろ、食卓の着席位置で最も安定しているのは、母親の座である。母親は、北または西に位置する長辺の角（位置5）に座ることが圧倒的に多い。その位置は、台所に近いという合理的な意味があるのかもしれない。しかし、それだけではなく、この事実から、母親が、単に食事の主たる担当者としてばかりでなく、家庭の団らんの主催者として、家庭の中では父親よりも存在感のある地位を確立している、という現代の家族関係秩序の一端を読みとることができるのではないであろうか。

3. 食卓は囲炉裏端ではなくなっている

囲炉裏端の秩序は、現代の食卓にはもうすでに見られない。むしろ、食卓は、家族の地位関係を表現する象徴的、儀式的な場ではなく、食事という生活を営む機能的な場となっているようだ。囲炉裏端の時代は、囲炉裏端の空間配置がそのまま食事時にも持ち込まれ、各自が銘々膳で囲炉裏を

囲み輪になって食事したのであろう（井上，1988；山口・石毛，1989）。当時は、家族数も多く、全員が一同に会して食事ができるだけの大きな食卓も無かったであろう。家族数の減少や椅子とテーブルでの食事といった生活スタイルの変化も、食卓の座席位置から家族の人間関係の秩序の表現という機能を奪った原因の一つに違いない。

4. 今日における食卓の着席位置の意味

家庭における家族の食卓の座席位置は、伝統的な価値や習慣の中では、あまり重視されてはいない。これは、家族の人間関係の秩序そのものが民主化されたことの反映なのか、食卓が囲炉裏端とは違って人間関係の秩序を空間的に表現する場としての機能をもっていないためなのかはわからない。しかし、家族の着席位置は決まっていなかったかといえば、はっきり決まっていると認識されている。決まってはいるが大した問題ではないということなのだろうか。いつも意識されないほど、習慣化しているためなのだろうか。このあたりの事情を明らかにするために、家族の座席位置を意識せざるを得ない状況を実験的に作り出すような手続きを工夫すべきであろう。

今回の調査で、父親と娘、母親と娘の間に、着席位置においても一定の傾向が見いだされたことは、食卓の着席位置が家族間の関係性を知る手がかりになることを示唆している。家族の着席位置を実験的ないし質問紙的に表出させることによって、家庭の中の人間関係の問題性を具体的に空間的に読みとることができるかもしれない（足立，1983）。今後の課題である。

文 献

- 足立己幸 1983 「なぜひとりで食べるの」 日本放送出版協会
- 穂山貞登 1980 「空間が人をつくる，人が空間をつくる」 講談社
- Cline, R. J. & Puhl, C. A. 1984 Gender, culture, and geography: A comparison of seating arrangements in the United State and Taiwan. *International Journal of Intercultural Relation*, 8, 199-219.
- 樋口清之（監修）1987 「日本人の『しきたり』ものしり辞典 暮らしの中に伝えられる英知」 大和出版
- 井上忠司 1988 「『家族』という風景——社会心理学ノート」 日本放送出版協会
- 日本民族学協会（編）1957 「日本社会民俗辞典」 誠文堂新光社（昭和32年）
- Sommer, R. 1959 Studies in personal space. *Sociometry*, 22, 247-260.
- ソマー，R.（穂山貞登訳）1972 「人間の空間」 鹿島出版会
- 山口昌伴・石毛直道（編）1989 「食の文化フォーラム・家庭の食事空間」 ドメス出版
- 柳田国男・山口貞夫（共編）1939 「居住習俗語彙」 国書刊行会（昭和50年再版）